

■ 実践報告 ■

シナリオロールプレイで学ぶ男女共同参画：
臨床実習少人数グループで実践した授業の報告操 奈美¹⁾、小原奈津子²⁾、白木 育美¹⁾、小川 武則²⁾、牛越 博昭¹⁾、今福輪太郎³⁾

- 1) 岐阜大学医学部附属地域医療医学センター
- 2) 岐阜大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野
- 3) 岐阜大学医学教育開発研究センター

【要旨】 岐阜大学医学部医学科4年-5年生が受ける臨床実習期間に、実習班単位の小グループ学習で男女共同参画授業を実施した。授業では、ライフイベントと医師としてのキャリア形成をテーマとして取り上げた。医学生は全員がシナリオロールプレイに参加し、演じる役柄を通じ自身と異なる立場からシナリオの課題について考え、さらに班で意見を共有することにより理解を深めた。また、臨床実習で実際の職場を身近に感じながら、医師のキャリア形成を考える機会とした。ロールプレイでの医学生の演技からは、男子医学生・女子医学生とも育児を担う役柄を妻と設定する傾向が観察され、性別役割分業意識を持つことが示唆された。また医学生は、育児とキャリアを両立していくためには当事者の意欲的な姿勢が重要となるが、同時に問題の解決のためには職場の環境や人間関係が重要となると考えていた。演技後のふりかえりでは医学生はキャリア形成に対し意欲的な発言をしており、今後、この意欲を育んでいくことが出来るような、職場の意識啓発活動を含めた卒前卒後のキャリア教育の充実が大切となる。

キーワード： キャリア認識、卒前教育、性別役割分業、ロールプレイ

Practice of Gender Equality Classes Using Scenario Roleplay for Medical
Students in higher gradesNami MISAO¹⁾, Natsuko KOHARA²⁾, Ikumi SHIRAKI¹⁾, Takenori OGAWA²⁾,
Hiroaki USHIKOSHI¹⁾, Rintaro IMAFUKU³⁾

- 1) Center for Regional Medicine Gifu University, School of Medicine.
- 2) Otolaryngology - Head and Neck Surgery, Gifu University Graduate School of Medicine
- 3) Medical Education Development Center, Gifu University

Abstract

We held a class on gender equality with 4th and 5th year medical students at Gifu University School of Medicine using scenario role play. The students were divided into small groups, which allowed every student to participate, and the scenario was made so that the students would have a chance to think about career development during life events through the roles they played. The roles were given randomly, not considering the student's gender. We analyzed the students' remarks made during and after role play. Medical students tend to set the role of wife as the primary caretaker of children, suggesting that the students have traditional views of gender roles. Medical students thought that balancing career and life depends on the person and his or her motivation, and at the same time, the work environment will influence their achievement. They also believed that relationships between coworkers were important in solving this problem. Medical students expressed their enthusiasm for career development, and pre- and postgraduate career education, including workplace awareness activities, is desired to foster their hopes.

Key Words : career perception, undergraduate medical education, gendered division of labor, role-play

1. 背景

1. 緒言

2020年に医療施設に従事する女性医師数が7万人を越え¹⁾、その数は今後増加傾向にあるとされる。こうした現状の中、女性医師は、医師としてのキャリア形成における重要な時期と妊娠・出産などのライフイベントとが重なり²⁾、様々な問題を抱えることが多い。特に、未だ指導的地位における女性医師の割合が低いという現実、女性医師のキャリア形成の困難さ³⁾を裏づける一つの事実である。女性医師のキャリア形成を支援するためには、就業継続に向けた職場環境の整備とともに、男女共同参画やダイバーシティの推進が重要である⁴⁾。さらに、医学生が自らのキャリアプランを検討し、医師としてのキャリア形成および支援について学ぶことができる卒前からのキャリア教育の開発・拡充が必要となる⁵⁾。星野らは、男女医学生の結婚・家庭観と診療科選択の希望との関係性を意識調査により明らかにした⁶⁾が、具体的なキャリア教育を通じての学びについては探索していない。本稿は臨床実習中の医学生を対象に実施したシナリオロールプレイを用いたキャリア教育プログラムを紹介するとともに、そこでの医学生の経験や学びの認識について報告する。具体的には、本研究の目的は、ロールプレイの中でライフイベントに際したときのキャリア形成に対する医学生の認識や、そこで生じた問題点とその解決法に対する考えを明らかにすることである。

2. 岐阜大学医学部での取り組みの概要

岐阜大学医学部医学科では、4年-5年生が受ける臨床実習期間に、キャリア教育として男女共同参画授

業を行っている。この授業は耳鼻咽喉科教員が男女共同参画への理解を深めることの重要性から、診療科ローテーション内の一コマとして取り入れ実施している。本授業では臨床実習班単位の小グループ学習であることを活かし、実習班の医学生全員が参加する形式でシナリオロールプレイを行なっている。シナリオはライフイベントとして育児を、キャリア形成として専門医取得を例として取り上げ、子育て世代の医師とその職場を題材とした。

授業は耳鼻咽喉科外来の1室で講師と医学生が向き合う形で着席し、男女共同参画に関する講義(約20分)のあと、シナリオロールプレイ(約15分)を実施した。講師は2名の女性医師(小原、操)が分担して担当し、どちらの講師でも同じ内容で1時間の授業とした。講義では、全国での女性医師数の推移・年齢による就業率の変化・診療科別の女性医師の割合・当院における女性医師の割合や雇用形態、当院耳鼻咽喉科での女性医師の勤務の状況といったデータを提示し、キャリアプランを考える意義や専門医取得にかかる年数につき資料を配布し説明した。シナリオロールプレイ後は、子どもの急病時の対応に関する当院でのアンケート結果や、当地域にある病児保育施設・ファミリーサポートサービスを提示した。

ロールプレイでは、もし自分が各々の役の医師だったら育児と仕事の両立の問題をどう捉えるかを想像し、役を演じることを医学生に求めた。特に、ロールプレイ中の台詞はこちらで指定せず自分自身で考えさせることで、シナリオで提示した問題を自身と異なる性別や立場から考える機会とした。なお、各学生は本授業内でロールプレイを2回行えるように設計した。授業の流れを図1に示す。



図1 岐阜大学医学部医学科臨床実習内での男女共同参画授業の流れ

シナリオロールプレイの実施の詳細

- 実習班の医学生全員に割り当てられる数の登場人物（A～F）を設定した。それぞれの登場人物の役柄を図2に示す。Aは専門医取得に向け研修中の医師、BはAのパートナーで専門医をすでに取得した医師、

C～FはAまたはBの上司や同僚の医師であり、学生にはそれぞれの立場や考えを提示した。F以外の登場人物の性別は記載していない。C～E役には2回目のロールプレイの役柄として育児と仕事の両立に“理解が深まった”と考えられる役柄を設定した。

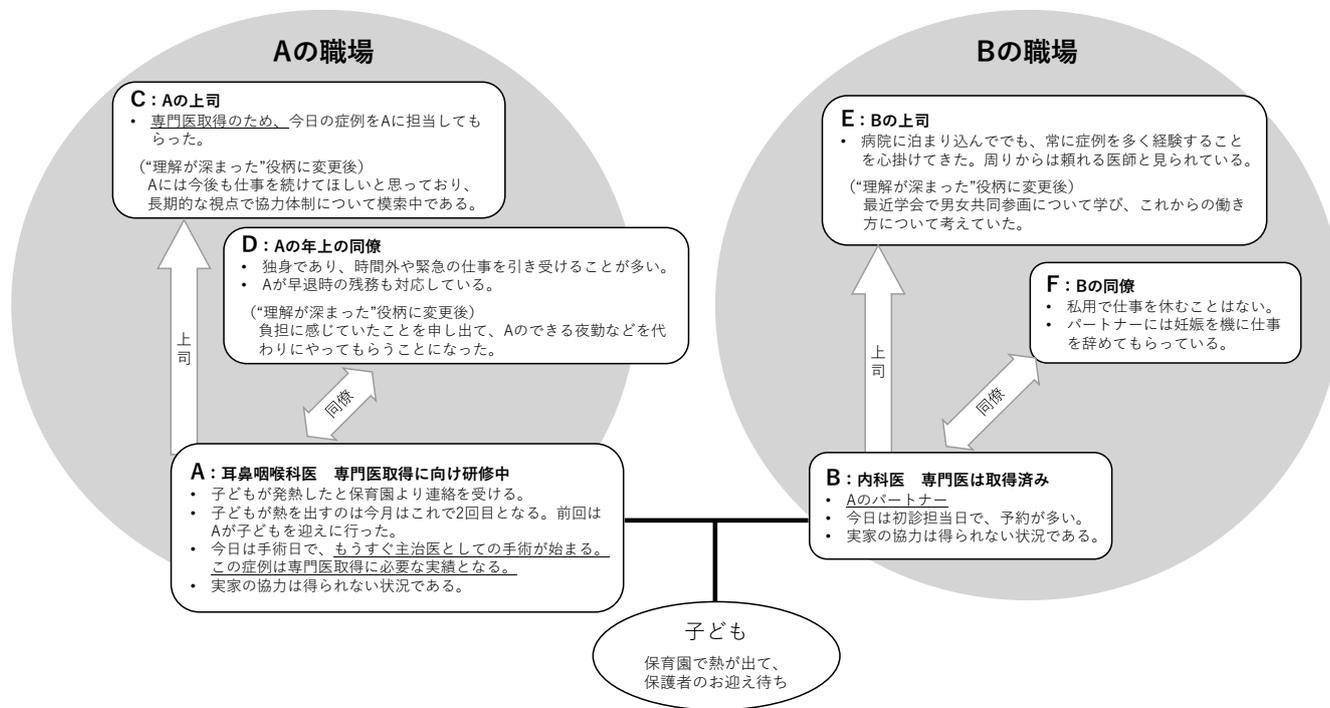


図2 学生に提示したシナリオの紹介（登場人物の役柄）

- 5人班ではA～Eの5つの役を、6人班ではF役を追加し6つの役を、4人班ではE役もしくはD役を省き4つの役を割り当てた。各々の配役は人の希望や性別は考慮せずは無作為に振り分けた。
- シナリオは、医師Aが勤務中に保育園から「お子さんが熱を出したので、迎えに来て下さい。」と電話を受けるところから始まる。その後は演じる医学生がどの役に話しかけるか、何を話すのか、自分が演じる役立場ならどう考えるか想像しながら即興で台詞を作り、自由に話を展開させる。AかパートナーのBのどちらかが仕事を中断し保育園に迎えに行くことになった時点で、もしくはどちらとも決められず会話が续かなくなったと講師が判断した時点で1回目の演技を終了とした。
- 1回目の演技後に、C～E役の役柄を“理解が深まった”役柄に変更し2回目の演技を行った。
- 2回目の演技終了後に、ふりかえりの時間（約25分）を設け班の全員に感想を述べてもらい、共有した。ある班の演技の実例を下記に示す。

シナリオロールプレイの会話例

司会者（講師）：（Aに向かって）お子さんが熱を出したので、保育園に迎えに来てください。

〈A（男子学生）は保育園からの電話を受けたあと、からパートナーのB（男子学生）に電話をする〉

A：もしもし、あの、子どもがちょっと熱でちゃったらしくて、迎えに来て欲しいって。

B：そっちじゃ迎えにいけないの？

A：え？

B：どうしよう……

〈Aは上司のC（男子学生）に相談する〉

A：急で申し訳ないのですが、今日の手術って、他の人に任せることでできますか

C：んー、そうか。Aさんの的にはどっちを優先したいと思っているのかな。

A：そうですね……

〈Aは年上の同僚D（女子学生）にも相談する〉

A：今日の手術なんですけれど、もし余裕があれば変わっていただきたいのですが。

D：えー、それ、前もあったよね。

A：すみません。

D: いやなんか、ちょっと、多くない？それ、旦那さんの方には確認したの？

〈AがパートナーのBへ電話する〉

B: もしもし

A: 出来れば、ちょっと行って欲しいのだけど。

B: えー。

A: 上司とかにちょっと、聞いてみてくれない？抜けられないか。

〈Bが上司のE(女子学生)に相談する〉

B: 子どもが熱をだしてしまって、妻が迎えに行くことができないんで、抜けさせていただけないかな、と思って。

E: えー、でも今、外来中だよ。奥さん、抜けれないの？君が行かなきゃだめなの？

方法

1. 調査対象

2020年度、2021年度岐阜大学医学部医学科の臨床実習(2020年11月-2022年11月)で、2週間の耳鼻咽喉科実習期間に実習班(1班4-6人)ごとに実施した男女共同参画授業を受けた医学部4年生・5年生を対象とした。講師の都合や感染症対策等により、急な臨床実習時間の変更や中止等で予定通りに授業が行われなかった班は対象外とした。

2. データ採取と分析

ロールプレイでの医学生の演技と、その後のふりかえりを録音し、それをもとに逐語録を作成した。ロールプレイの逐語内容から、医学生は「A役とB役のどちらを妻役と設定したか」および「AとBのどちらが子どもの迎えに行くことになったか」を実習班毎に調べた。さらに、演技の背景にある考えや本授業での気づきを明らかにするため、シナリオロールプレイ演技後の医学生のふりかえりに関する逐語内容は主題分析法⁸⁾に従い分析された。具体的には、テキストデータを、意味単位に切片化し、各切片化されたテキストにその内容の特徴を示すラベルを付した。その後、各

ラベルを比較検討し、類似性のあるものをまとめながら抽象度をあげ、テーマを抽出するとともに、各テーマの関連付けを行なった。

3. 倫理的配慮

医学生には授業開始時に授業内容を録音し研究資料とすることを書面で同意を得た。発言内容は、発言者の性別以外の情報は付加せず逐語録とした。本研究は岐阜大学医学部倫理審査委員会の承認(番号:2020-173)(承認日:2020年11月04日)を得て実施している。

結果

1. 対象者の概要

2020年度に106名(21実習班)、2021年度に117名(21実習班)の学生が実習を受け、そのうち38実習班195人(87%)(男134人:女61人)で調査を行った。1班あたりの医学生数は5名班が最も多く27班で、6名班が8班、4名班が3班であった。

2. 医学生はカップルの妻/夫役をどう演じたか

シナリオでの登場人物AとそのパートナーのBの設定に関して、38班中、「保育園から電話を受けた」Aを妻と設定したのが27班(71%)と最も多かった。次いで、Bを妻と設定したのは5班(13%)となり、6班(16%)ではどちらが妻/夫か決まらないままロールプレイが終了した。

役を演じた医学生の性別と、妻/夫役の設定(表1)では、A・Bともに男子学生が配役された16班中13班(81%)が「保育園から電話を受けた」A役を妻役とした。Aに女子学生・Bに男子学生が配役された場合、Aの女子学生が全班(10班)で妻役となった。一方、Aに男子学生・Bに女子学生が配役されると、Bの女子学生が妻役となるのは11班中4班(36%)のみであった。なお、6班でAとBで妻/夫が決まらないままシナリオが展開されたが、すべてA役に男子学生が割り当てられていた。

表1 シナリオでの登場人物AとそのパートナーのBの、どちらを妻/夫と設定したか

演じた学生の性別			「保育園から電話を受けた」A役が妻と設定される割合					
A役	B役		Aが妻		Bが妻		決まらず	
男	男	(16班)	12班	(75%)	1班	(6%)	3班	(19%)
女	女	(1班)	1班	(100%)	0班		0班	
女	男	(10班)	10班	(100%)	0班		0班	
男	女	(11班)	4班	(36%)	4班	(36%)	3班	(28%)

シナリオの話の展開で、保育園に迎えに行くことになったのは、1回目の演技では夫役が16班と多く、13班で妻役、9班は決まらなかった。2回目の周囲の理解が深まった設定での演技では夫役が24班と増加し、妻役は9班に減少し、5班で決まらなかった。

また、専門医に向け研修中のA役が迎えに行くか、専門医取得後のB役が迎えに行くかでみると、Aが15班、Bが19班、4班で決まらなかった。周囲の理

解が深まった設定に変更後の2回目の演技ではAは7班に減り、Bが31班と増加した。

3. 役作りの基盤となった考え

医学生の演技後の感想を分析し、演技するうえで役作りのもととなった考えとして「性別役割分業意識」「個人の価値観」「職場の人間関係」の3テーマが抽出された(図3左)。

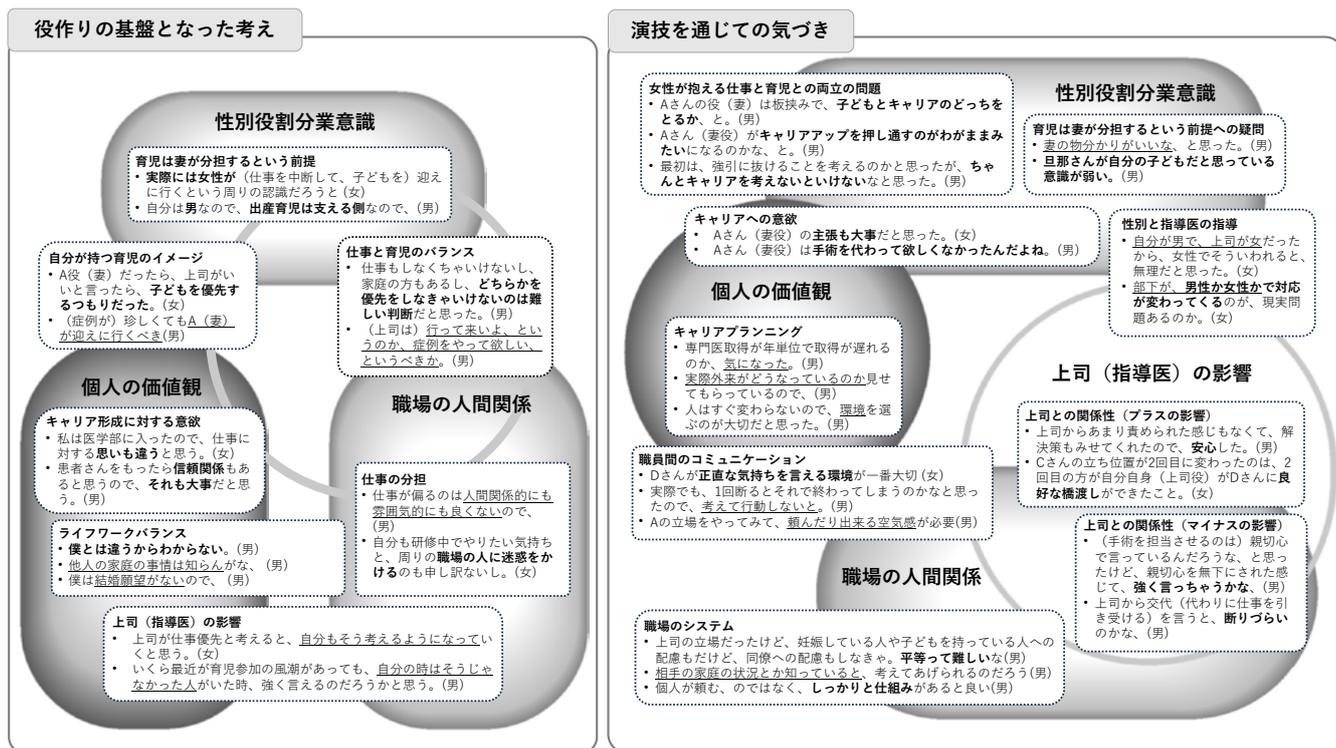


図3 ロールプレイ演技後の学生の感想と、その分類(発言者の性別)

医学生の「性別役割分業意識」が演技の背景にある。医学生の認識として、仕事を中断し子どもを迎えに行くのは“実際には女性”で、男性は“育児出産は支える側”であるという認識を有していた。また育児のイメージとして、A役を演じた女子学生からは、“A役(の妻)だったら、子どもを優先する”という発言があり妻が育児を担うという意識を持っていた。

同時に、「個人の価値観」として医学生のキャリア形成に対する意欲も演技に影響した。学生は、仕事に対しては“思いがちがう”と仕事を大切に考える気持ちがあり、仕事を中断することに葛藤を示していた。さらに、患者と向き合う医師の仕事において“信頼関係が大事”だとし、医師としてのキャリア形成への意欲がある様子があった。

性別役割分業意識とキャリア形成への意欲が役作りに影響する中で、医学生は仕事と育児の“どちらを優

先しなくやいけないのは難しい判断”であると考え、迎えに行く者が決められないこともあった。そこには、演じた役柄と“僕とは違うから分からない”といった逐語例が示すように、ライフワークバランスに対する価値観は多様でその全てを理解することは難しいと考えていること、働き方の違いから“職場の人に迷惑をかける”といった申し訳なさや上司である指導医の考えなど「職場の人間関係」の認識が演技に影響していたといえる。

4. 演技を通じての気づき

同様に、演技後の感想を分析し、医学生の演技を通じての気づきを抽出した(図3右)。

子どもを迎えに行く者が妻役に決まったことに対し、“旦那さんが自分の子どもだと思っている意識が弱い”と夫役の育児への意識の低さに加え、妻役は“子ども

とキャリアのどっちをとるか”考えざるを得ない状況にあることに気づいた。さらに女性が育児を優先するものと思われる状況で、“キャリアアップを押し通すのがわがままみたい”と周囲に思われる、あるいは自身が思ってしまうような精神的な負担が存在することや、“Aさん(妻役)は(手術の担当を同僚に代わってもらったが、本当は)手術を代わって欲しくなかったんだよね”と仕事への思いを表出しづらい雰囲気が出てしまう事実気づくことができた。この「性別役割分業意識」は、上司である指導医の指導にも影響する可能性も指摘された。

その中で、「個人の価値観」としての自身のキャリアへの意欲に関しては“妻役の主張も大事だ”と、本人の意思表示と、“ちゃんとキャリアを考えないといけない”という発言から自分の価値観にあうキャリアプランの検討が重要であるという気づきも生まれた。

医学生はシナリオが提示する問題の解決として、“平等って難しい”と捉えたうえで、それに向かった“しっかりとした(職場の)仕組み”を考えること、職員が“正直な気持ちを言える“コミュニケーションがとれる環境”など、職場の良好な人間関係の構築が重要だと考えた。特に「職場の人間関係」には指導医の考えがプラスにもマイナスにも影響し、上司である指導医の発言は“安心”や“同僚との良好な関係”につながることもあれば、“強く言われた”り、依頼を“断りづらい”と受け止められる危険性もあげられた。

考察

卒前医学教育における臨床実習は、医学生が医師の働き方を実感し、将来自分が働くことを意識していく学習機会でもある。臨床実習での経験が医学生のキャリアプランに影響を与える可能性を指摘したインタビュー調査⁹⁾では、医師が働く様子を間近に見ることが、育児と両立したキャリア形成の困難さの実感につながる場合と、逆に医療職のやりがいを実感しキャリア形成への意欲が高められる場合があることが報告されている。本研究の授業に参加した医学生においても「実際外来がどうなっているのか見せてもらっているので」と実際の職場を想起しながら問題を考える様子や、「専門医取得が年単位で取得が遅れるのか、どうなのか」と具体的にキャリアプランの問題を考える様子がみられた。主体的にキャリアを構築する能力を養うことはキャリア教育において重要であり、臨床実習期間での男女共同参画授業の実施は、医学生がキャリアパスや働き方に関する問題を自身のこととして捉えて考える上で効果的な方略であるかもしれない。

今回のシナリオでは性別を設定していないカップル

が登場するが、演じた医学生はそのうち保育園の電話を受ける、つまり育児を担っている役を妻と設定することが多かった。また育児を担うことは、演じる医学生の性別よりも強く妻役の設定に影響していた。これらは育児を女性の仕事と考える医学生の性別役割分業意識を示し、これにより育児に際しては女性医師がキャリア形成に悩むことになると考えたと推測される。過去の報告⁶⁾においても、医学生は学生時代から男女ともに性別役割分業意識の影響を強く受けており、これが女子医学生のキャリア形成の障害となる可能性が指摘されている。性別役割分業への理解はキャリア教育の目標のひとつであり、今回授業で実施したシナリオロールプレイでは性別を考慮せず配役することで、医学生が様々な立場から育児とキャリア形成に関する問題を考える機会になったといえる。

女性医師のキャリア形成に重要なものとして、医学生は「(妻役の)主張も大事だ」と女性医師役の意欲を挙げ、また上司や同僚の理解が影響するとして職場環境を挙げた。そして女子医学生は、「仕事に対する思いは違う」とキャリアを重視する姿勢をみせ、意欲的である様子がうかがわれた。キャリアの継続にはモチベーションの維持が重要であり^{4,5)}、医学生が持っている意欲を育み後押ししていくことが大切であろう。女性医師がライフイベントに際し家庭で多くを負担している⁴⁾現状において、男性の家事・育児への参画は課題であり、今回のシナリオロールプレイで夫役が育児を担う意識が少ない様子に医学生が疑問を感じたことは、この問題を卒前から考える機会となったと思われる。さらに、医学生は上司(指導医)の対応が“男性か女性かで変わってくる”のではないかという気づきを述べており、育児支援は女性だけでなく男性医師にも必要である⁵⁾ことを認識できたであろう。医師臨床研修指導ガイドラインでも職場の理解の重要性が記され⁷⁾、医学生もその重要性を感じている。女性・男性医師ともにライフイベントと仕事を両立することができる職場の理解とは何か、その中でキャリアを形成していくための意識啓発は卒前から卒後にわたり取り組むべき課題であると思われた。

本研究での男女共同参画授業は臨床実習の診療科ローテーションとして行っているため、授業を受けた時点での臨床実習の経験は実習班ごとに異なり、診療科ローテーションの順が医学生の発言に影響を与えた可能性がある。また、授業後の学生の評価は行なっておらず、授業の有効性を明示することは出来ない。一方で、シナリオロールプレイでは医学生全員が役を演じることで参加し、その後講師が医学生に一人ずつ感想を訊ねる形で全医学生が感想を述べており、本報告は、医学生の考えを広く集約したものだといえる。つ

まり、本研究で提示した結果は医学部における男女共同参画教育に関わる幅広い示唆を含むものと考えられる。

岐阜大学医学部医学科4年-5年生の臨床実習期間に、実習班単位でシナリオロールプレイを用いた男女共同参画授業を実施した。この授業内での発言から、医学生は妻が育児を担うとする性別役割分業意識を持つことが示唆された。また、医学生は育児とキャリア形成の両立には当事者の意欲的な姿勢が重要だと考え、同時にそれは職場の人間関係などの環境に影響されると認識していた。医学生はキャリア形成に対し意欲的な発言をしており、今後、この意欲を育ていくためには、職場の意識啓発活動を含めた卒前から卒後に継続するキャリア教育をより充実させていくことが大切となるだろう。

謝辞

本研究に参加いただいた岐阜大学医学部医学科生に感謝いたします。また、授業実施に際しご尽力を賜りました岐阜県医師会常務理事・近藤由香先生に感謝いたします。本研究のもととなる岐阜大学医学部附属地域医療医学センター「岐阜大学医学部・同附属病院女性医師就労支援の会」の活動にご協力いただいている村上啓雄先生、仙石由貴先生、大西祥代先生、山口聖次郎先生、久保田伊代先生に感謝いたします。

引用文献

- 1) 厚生労働省：令和2（2020）年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況。 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/20/dl/R02_1gaikyo.pdf (accessed 1 December 2023).
- 2) 片岡仁美, 関明穂, 川畑智子, 他：女性医師のライフイベントを考慮したキャリア支援：岡山大学アンケート調査。 *医学教育* 2016; 47: 111-123.
- 3) Emiko Kono, Urara Isozumi, Sachiyo Nomura, et al: Surgical Experience Disparity Between Male and Female Surgeons in Japan. *JAMA Surg* 2022;157:e222938.
- 4) 浮山 越史, 中原 さおり, 横井 暁子, 他：日本小児外科学会ワークライフバランス検討委員会。日本小児外科学会における男女共同参画への歩み。 *日本小児外科学会雑誌* 2022; 58: 846-850.
- 5) 蓮沼直子：外科系女性医師のキャリア継続と活躍に必要なものとは何か。 *Skin Surgery* 2016; 25: 81-88.
- 6) 星野 奈生子, 青木 弘枝, 神田 明日香, 他：医学生の結婚・家族観と診療科選択に関する調査：アンケートによる予備調査。 *医学教育* 2016; 47: 23-28.
- 7) 厚生労働省：医師臨床研修指導ガイドライン—2020年度版—（2020年3月 一部改訂）。 https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/ishirinsyokensyu_guideline_2020.pdf (accessed 1 December 2023).

- 8) Braun, V., Clarke, V. : Using thematic analysis in psychology. *Qualitative Research in Psychology* 2006;3: 77-101.
- 9) 青木 弘枝, 星野 奈生子, 神田 明日香, 他：男女医学生はどのようなキャリア認識を有しているのか？—インタビュー調査から見えてきたもの—。 *日本プライマリ・ケア連合学会誌* 2016; 39: 198-204.

【著者連絡先】

操 奈美

岐阜大学医学部附属地域医療医学センター

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1-1

電話：058-230-6539

misao.nami.u6@f.gifu-u.ac.jp